

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3393400092		
法人名	社会福祉法人 恵神会		
事業所名	グループホーム 高瀬		
所在地	岡山県真庭市中島393-1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年3月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所においては心穏やかに寛げる「良い空間づくり・生活環境の場」を心がけております。また併設する小規模多機能事業所との連携を図ることで複合施設のよさを十二分に発揮できるのではないかと考えております。そして市街地中心部に立地していることから他施設に比べ、立地環境の優位さから地域との交流促進、気軽に買い物等の外出支援が図られるという点においてもグループホームが本来果たすべき事業所としての役割を兼ね備えていると考えております。さらに日常生活の中で利用者の方々の

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

立地条件に恵まれ、地域との関係も良好である。運営推進会議も、行政 地域住民 関係者が積極的に参加し地域密着型事業所としての役割を十分にはたしている。いちグループホームとゆう小さな施設の中だけの活動にとどまることなく、地域に広く施設を開放し、母体の社会福祉法人と連携をとりながら認知症対応型共同生活施設としての機能を十分に発揮されていました。大きな組織にありがちな、行政的な対応ではなく小規模施設のよさが感じとれる施設でした。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域密着型サービスに添った内容が含まれており、職員会議の場で内容の意味等について再確認をし、理念について職員相互で共有を深めている。理念は玄関と事務所に掲げている。	グループホームの名前にちなんだ、た・か・せを意識づけながら、スタッフ一同が共有を深め、理念の共有に努めている。	覚えやすく分かりやすい内容である、堅苦しい文面ではなくスーッと自然になじんでけるような理念なので常に家族的な雰囲気味わえるように支援してほしい
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の秋祭りを見学交流したり、近くにある高校との相互の交流事業を図っている。	近くに教育文化施設もあり、場所的に恵まれている。職員の子どもさんの関係もあり地域との交流は情報も入り出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	複合型事業所(小規模多機能施設との併設)としての特性を生かし、在宅での介護困難ケース等に対して可能な限り相談にのられるように面接・電話・訪問にて話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね3か月に1回、会議を開催しており、地域の方や家族からの質問・要望提案事項についてやりとりしたり、事業所の全体的な様子について話をしている。	地元の方、民生委員、家族に参加してもらい小規模多機能と合同で定期的開催されている。	運営推進会議で出た色々な意見を、参考に実践し、グループホーム高瀬の特色作りに努めていただきたい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月に1回、真庭市グループホーム連絡協議会で市も加わって情報交換や相互交流を行っている。またホームだけで解決できない内容の課題がある場合は市に相談するようにしている。	情報交換しながら、課題について話し合い細かなことでも報告、相談ができているようです。市(行政)も非常に協力的で事業所・行政が利用者満足目標に向かい一つになっているように思いました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず。但し、1名の利用者に関しては転倒等の危険性に加え、家族からの要望もあり、家族との承諾書を取り交わした上でベット柵を使用している。	身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組んでいました。職員教育も十分なされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や引き継ぎ等のミーティングにおいて話し合う機会を持っている。マニュアルの作成あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を活用した事例はないが、マニュアルを活用し、会議にて職員同士で権利擁護事業や成年後見制度の必要性について話し合いの機会を持っている。またマニュアルの閲覧を自由にできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は料金改定を含め、書面に基づいて説明・取り交わしを実施しており、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から話しやすい良好な関係を築くよう努めている。また面会等来所時に記入をお願いしている面会カードへ意見等を記入して頂いたり、玄関に意見箱を設置して対応している。	家族からのご意見 要望を頂くために玄関に意見箱を設置している。利用者家族様より直接ご意見を頂くことが多いようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝夕の引き継ぎ時には随時、職員相互の意見や提案事項を話し合い、業務に反映させている。	理事長が職員一人ひとりと面談をして職員の意見を聞き運営に活かされているようです。	開設して約1年の事業所であるが管理者・職員が統一意識を持ちチームケアに日々努力をされている。今後もよりいっそうの努力に期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づいて可能な限り環境整備に努めている。さらに年2回人事考課制度を活用実施することで左記の内容の拡充に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市又は各機関等からの研修を勤務に支障のない限り参加しており、また研修後の復命伝達にて研修内容の共有化を図っている。さらに法人として定期的に社内研修を実施しており資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市グループホーム連絡協議会を持っており、行政が一緒となり情報交換や勉強等を行い、資質向上や情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学は可能な限り親族に限らず利用者本人にも来て頂き、ホーム内を案内しながら必要な説明をしている。またサービス利用前でも後でも、不安や疑問がある時はいつでも相談にのれるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があった時点で、親族(家族を含む)と面談を実施し現状についてや本人と親族と意向には違いがあることが多いため、よく聴き理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人や親族がどのような支援を必要としているかを考慮し、必要があれば行政機関や他の事業所等と連絡調整を行い適切なサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは可能な限り自分で行ってもらうことで心身の健康度を高めると共に自主性を尊重し、良好な人間関係が構築できれば良いと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より家族関係を良好に保っていけるように配慮している。そのためには入居している状態であっても、情報の共有化や困難課題が生じた時には報告連絡相談を密にするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれま築いてきた馴染みの関係性を大切に、本人の友人・知人が訪問しやすい環境作りに努めている。	友人や知人訪問はなかなか難しいが近所の方の出入りはあり、誰もが気軽に訪問できる雰囲気作りに努めている。	一人ひとりのこれまでの経験や生活歴を把握し近隣、地域との交流を深めその人らしさが失われないようサポートしていただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや外出行事に積極的に参加できるようにしている。また皆さんと一緒にホールで過ごす時間を多く取っている。加えて利用者同士の相性や聴力の問題等を把握し、必要に応じて席替えを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入居が決定した場合にはなるべく細かく情報提供を行う。長期入院となる場合にも、ホームで出来る限りの相談にのれるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部入居者は自宅生活を望んでいる。しかし、本人の身体状況や認知度、さらに家庭環境で在宅生活は困難である。そのため出来る限り家庭的な雰囲気作りやその人に合った意向把握に努めている。	一人ひとりの生活歴を基に本人の気持ちを大切にしたいケアに心掛けていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家庭やケアマネからよりわかる範囲で生活歴を聞き取り把握に努めている。認知症が重い方でも会話の一部や生活している中で、本人からヒントが見えることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルやその日の状態把握の他、何気ない日常の話から一人ひとりの興味関心事を引き出し、楽しさのある日常生活を過ごして頂くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者は高齢であり、身体状況の変化も著しく、残存機能をいかに低下させないか課題としている。利用者の残存機能が無理なく引き出されるよう本人や家族の意向を含んだ介護計画を作成している。	ご利用者それぞれの課題を定め介護職員が現場での気づきなどを反映させたアセスメントを基に、現状に即した介護計画作成に努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の経過記録の他に職員間で情報を共有する事ができるよう連絡ノートを作っており、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の小規模多機能型事業所との交流や共同での行事等を随時行っている。また家族との外出・外泊、面会も自由に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方々(住民・高校生)に来て頂き、行事等の協力を得ている。また事業所としての歴史は浅いが必要な支援体制を作るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に家族・本人の希望に添って決めている。大半の利用者が隣接する協力医療機関がかかりつけ医となり、医療の支援体制は出来ている。	家族が対応される方、事業所対応の方と個別の対応をされていました。必要に応じて 看護師、ケアワーカーが付き添っての受診対応がなされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や介護職では判断のできない事について、随時看護師に連絡報告し指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院になりそうな場合には、早期退院に向けて担当医や主治医、家族と相談・情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所での看取り指針を基に、比較的元気である段階において、家族へ説明同意を頂いている。また現在に至るまで実施例はないものの、重度化及び終末期ケアについての指針を基に職員間で話し合いをしている。	開設1年の新しい施設ですが、看取り 重度化に向けた取り組みには積極的なご返事でした。	今後グループホームでの看取り 重度化に向けた取り組みへのニーズは非常に大きいものがあるとおもいます。グループ事業との連携も念頭に入れ利用者様の希望に応えるべく努力をお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時(事故発生・利用者の急変を含む)のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、専門的な事例(消火器の使い方等)を消防関係機関の方からご指導を頂いている。	定期的に小規模多機能と合同で避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけを心掛けています。例えばトイレ誘導が必要な方には、本人の気分を損ねないような声掛けをするよう気を付けています。	大きな声で声掛けしないように配慮してる、トイレが完備された居室もあり、自室のトイレを利用する方もいる。一人ひとりのプライバシーの確保にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から集団・個別レク、買い物、季節ごとの行事の参加等を自発的に希望を表出できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、大まかな時間帯は決まっているが、一人ひとりの気持ちを優先し、出来る限り希望に沿えるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中でその日の衣類を自分で選択してもらう等の支援を行っている。また随時、理容師・美容師に來所して頂き、髪を整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者と職員が共になごやかに食事をしている。又、誕生日会や行事ごとに特別料理(寿司など)で楽しんで頂いている。お手伝いができる利用者は職員と一緒に頂いている。	利用者と共同作業を行いながら食材をきってもらったり、洗い物をして食事を楽しむことのできる支援がなされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや食事形態を考えつつ、食べる量や水分量にも気を配っている。気になる利用者については毎食ごとに記録し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。また夕食後の口腔ケア後には入歯洗浄剤(ポリデント)を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的な排泄はトイレでという考えで支援している。なかなかトイレへ行こうとされない利用者についてもパターンを把握し、時間的に声掛けを行いトイレ誘導をしている。	排便チェック表を利用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握している。個別の対応が出来ていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無の確認と伴に記録しており、便秘にならないように普段から水分補給・運動等の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね2日に1回の入浴ができるよう配慮している。入浴に拒否が見られる利用者には気分を損ねないように声掛けに努めている。また利用者の身体状況や希望を把握し、入浴支援をしている。	健康状態の確認を取りながら気分を損ねないように努めている(入浴拒否者は一人いる) 併設の利点で機械浴があるのも良い点だとおもいました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理や換気を随時行い、気持ち良く眠れるように支援している。また昼食後などに休息の時間をとるよう声掛けを行うなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の説明書きをファイリングし、確認できるようにしている。また薬内容が変更になった場合には随時職員(看護師)を通じてノートに記入し、各職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別・集団レクや買い物、家事手伝いなどにおいて、利用者自身が興味関心のあることや身体機能的にできることなどを主体的又は側面的に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は建物の外にて外気浴をしたり、近くを散策している。また日々の食材購入時には比較的健常な方とスーパーまで出掛けている。さらに時折複数の利用者と共にドライブなどにも出掛けている。	立地条件に恵まれているので行先はたくさんある。利用者に季節感を感じてもらおうと共に外気浴を浴びながらストレス発散できるように支援していき生きることの喜びを味わってもらいたいとの思いから外出支援にも、力をいれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持等は入所前に家族や本人と話し合い決めている。また保管管理については基本的には事務所で管理している。さらに支出入については出納帳に付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話については掛ける希望や掛かってくるものがほとんどない。また手紙については一部の利用者へは手紙やはがきが届いており、本人に見て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は快適に過ごせるように考慮し、ホールテーブルの上には季節の花などを飾っている。また空調管理、照明の調節はその時に合わせて職員が行っている。	見守りがしやすく家庭的な雰囲気が十分演出できている、皆との共同生活が居心地よく過ごせるよう環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはテーブルやいす、ソファーがあり、気の合った利用者同士で談話・レクなどで楽しまれている。また、その時々に合わせて居場所を変える事ができるように工夫を凝らしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内は個人の好みの物やなじみの物を持ち込んで頂いている。家具等の配置も利用者・家族の希望、そして使い易さを考え相談して決めている。	各居室のドアにはご本人の名札に顔写真が貼られ、部屋を間違えないように配慮されている、居室内は一人ひとりの個性が活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの至る所に手すりを設置し、転倒予防や歩行訓練を兼ねての自立移動に生かしている。また自室入口には表札等を設置することで、他居室との区別を図っている。		